

ナシを加害するヒメボクトウの発生					
[要約] 2014年6月に、 <u>ナシの主幹部及び枝を加害しているヒメボクトウの幼虫</u> が確認された。 <u>性フェロモントラップ</u> では、被害が発生していない地区でも雄成虫が捕獲されたことから、被害の拡大が懸念される。					
果樹試験場・病害虫研究担当			連絡先	0952-73-2275 kajushiken@pref.saga.lg.jp	
部会名	果樹	専門	果樹虫害	対象	ナシ

[背景・ねらい]

2014年6月に佐賀県内でヒメボクトウの幼虫によるナシの被害が確認された。ヒメボクトウは、東日本を中心にリンゴやナシの主幹部及び枝を加害する害虫として顕在化しており、西日本での発生は徳島県に次ぎ2例目である。本種の卵は卵塊で産卵され、幼虫が集団で加害するため木の枯死あるいは著しい樹勢低下の原因となる。

そのため、防除対策の確立のため、本種の発生生態の早急な解明が急務である。

[成果の内容・特徴]

1. 佐賀県北西部のナシ園において、主幹部及び枝部に直径5~8mm程度の穴が開き、中から木屑（フラス）が出ているのが確認された。被害部の中には、赤紫色を呈したヒメボクトウの幼虫が食入していた（図1）。
2. ヒメボクトウ用の性フェロモントラップを6月27日~7月22日まで設置したところ、設置期間を通じて雄成虫が捕獲された。被害が発生した園での捕獲数が最も多かったが、被害が発生していない地区でも雄成虫が捕獲された。（図2、表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. ヒメボクトウの幼虫による被害を確認している園は1園地だけであるが、被害が発生していない地区でも性フェロモントラップで雄成虫が捕獲されたことから、今後発生地域が拡大する恐れがあるので被害の発生に注意する。
2. ヒメボクトウの幼虫は集団で加害するため、他の主幹害虫（カミキリムシ類、ボクトウガ、コウモリガなど）による被害とは区別しやすい。
3. 本種に対する性フェロモントラップの捕獲効率は高いので、発生が懸念される地域では性フェロモントラップによる発生調査を行う。
4. 他県での防除時期は若齢幼虫発生期の7月上旬頃で、フルベンジアミド水和剤の防除効果が高いとされている。主幹部及び枝部に食入した幼虫に対して効果の高い薬剤はないので、適期防除に努める。また、幼虫期間は2年以上と長いので、食入させないことが重要である。

[具体的データ]



図1 ナシの主枝部の被害状況（左）、食入している幼虫（右）

表1 ヒメボクトウ雄成虫のフェロモントラップでの捕獲数（2014年）

地点	設置期間	捕獲虫数	被害
A町	1 6/27~7/22	95 頭	発生
	2 7/10~7/22	34	未発生
	3 7/10~7/22	20	未発生
B町	1 7/10~7/22	13	未発生
	2 7/10~7/22	2	未発生
C町	1 7/10~7/22	2	未発生
	2 7/11~7/22	1	未発生



図2 フェロモントラップで捕獲されたヒメボクトウの雄成虫

[その他]

研究課題名：果樹における難防除および新奇病虫害の迅速な防除技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2014年

研究担当者：口木文孝・川内孝太・野口真弓

協力・分担関係：西松浦農業改良普及センター